

男声合唱団ススキーノと共に 16年間800回超の長寿番組 コミュニティFM「ラジオカロスサッポロ」

ラジオカロスサッポロ・エグゼクティブ・プロデューサー/パーソナリティ
山崎 甲子男 Kineo YAMAZAKI

コミュニティFM「ラジオカロスサッポロ」の「男声合唱団ススキーノと共に」は2007年4月24日にスタート以来今年で16年目、10月18日で800回目を迎えました。



「ラジオカロスサッポロ」は1996年札幌市で初のコミュニティFM局として開局し、地域に密着した情報や音楽を中心に24時間放送をしています。札幌市内全域をサービスエリアとしていますが、現在はパソコン(サイマルラジオ)、ケータイ(リスンラジオ)などのアプリで聴取でき、世界中どこでも聴けるグローバルメディアです。 <http://radiokaros.com/>

男声合唱団ススキーノ

「男声合唱団ススキーノ」は2004年、札幌の中老年男性が集まって旗揚げした男声合唱団(名前はススキーノだただの酒飲みの会と思われるので「一」を入れてイタリア語ぼくした?)で平均年齢は70歳近く、東京団員も含めて80人。本道合唱界の第一人者長内 勲さん(北海道教育大学名誉教授)の指導で力をつけ、札幌コンサートホール(kitara)やサントリーホールにも出演。2度の台湾演奏旅行、年末のクリスマスディナーコンサートなど活発な演奏活動をしてきました。

しかし、コロナ禍で2020年2月末からすべてのコンサート、練習が中止となり、その後再開、中断を繰り返しながら、10月16日の「市民合唱祭」、21日の「日台友好音楽会」に出演したものの、11月に入って北海道は1万人を越す感染者の急増で2023年1月に予定していた「ニューイヤーコンサート」も中止となりました。

[男声合唱団ススキーノ \(susuki-no.com\)](http://susuki-no.com)

FM男声合唱団ススキーノと共に

この番組は2007年4月、おそらく全国初の男声合唱

団ラジオ番組として私が企画、制作、MCをつとめてスタートしました。毎週火曜日午後7時~8時生放送、多種多様な人生を歩んできた人にインタビューし、合唱という共通の趣味で繋がって、さらにコミュニケーションを図っていこうというもの。

団員の半数は学生時代などに合唱の経験がありますが、半数は全くの未経験者。全団員の出演が終わってからも1か月に一人は団員のほか、オールジャンルの音楽家や音楽愛好者が毎週ゲスト出演して今日に至っています。今年で16年目、札幌ではクラシック、歌謡曲、ポップス、ジャズなど多様な音楽関係者に知られる長寿番組となりました。

「男声合唱団ススキーノと共に」の記念すべき800回目のゲストは札幌の合唱界のレジェンド西村公男さん(85歳)でした。札幌西高校から北大に入学して北大合唱団で鍛えられ、卒業して札幌市役所に入り、NHK札幌放送合唱団に40年近く、現在はそのOB会で混声合唱、「北大合唱団OB会」では男声合唱を楽しんでいます。

さらに懐メロや歌謡曲を歌う札幌の人気男声カルテット「ダンディ・フォー」には20年以上前からメンバーとなり、札幌市内、道内はもとより、香港や、2度の台湾公演など1年間に40回もステージに立ったこともある現役のバリバリ。



西村公男さん



一方、ビジネスマンとしては世界でも有数の響きの良いホールといわれる「札幌コンサートホールKitara」の建設を担当する建築局長や白石区長など要職を歴任、

定年後は社会福祉協議会やNPO法人北海道国際音楽交流協会(ハイメス)で北海道の音楽文化の向上に尽力してきました。まさに北海道の合唱界の至宝です。

この日の放送では「NHK札幌放送合唱団」第25回定演(1974年)の「楽しいこだま」、「北大合唱団OB会」第7回演奏会(200年)の「海」、そして「ダンディ・フォー」の「ブルーシャトール」「川の流れるように」「この青空を」など温かくも力強い熟練のハーモニーを聴かせてくれました。



もう一人の北海道の合唱界の至宝を喪ったお知らせです。「ススキノと共に」第804回のゲストは今年9月27日70歳で急逝されたススキノ団員でトップテノールの植地 計さん。この日の放送は2017年10月17日、64歳の時にラジオ出演されたものを再放送でお送りしました。



植地 計さん

山崎甲子男さん

植地さんは目がご不自由な方でしたが、40代までは簿記学校の先生。50歳でほぼ失明して指圧、はり灸、マッサージの資格を取って帯広で治療院を開業。その間50年以上続けてきたのが合唱でした。帯広の男声合唱団「コールブリュエデル」など2つの合唱団や「ススキノ」はじめ、小樽、函館、旭川などの男声合唱団でも完全暗譜で活躍し、時にはソリストとして伸びやかで豊かな音域のテノールを聴かせてくれました。

宗教曲にも造詣の深い植地さんはヘンデルの「メサイア」公演と聞くと、千葉、埼玉など関東地方まで駆けつけて歌い、2017年には、ソプラノ中丸三千繪さん、アルト駒ヶ嶺ゆかりさんなどと古楽器の「コレギウム・ムジクム・テレマン」、120人の「とちかち コーロメサイア」による帯広演奏会の実行委員長として大成功させました。

ススキノではそれまでサポートメンバーとして参加してきましたが、2015年に正式に入団し、宮崎や高知で開催された「全日本男声合唱フェスティバル」の思い出などを話してくれました。

とくに2017年の第6回「全日本男声合唱フェスティバルin小樽」ではススキノのほかに「小樽市役所グリーンクラブ・プラス」の一員として参加し、多田武彦作品の難曲のソロを見事に歌いきって、合唱指導界のレジェンド・広瀬康夫さんから絶賛されたソロシートのCDは圧巻でした。

植地さんは音楽性や音楽の知識はもとより本当に素晴らしい行動力に溢れた人格者でした。私はトップテノールとして常に隣で歌っていたので、ステージに登場するときに彼は私の肩に触れるのですが、中でも2018年10月にできたばかりの札幌文化芸術劇場(hitaru: 2300人)のオープニング企画「プリミティブ」コンサートでセンターステージの奥からススキノがさっそうと登場した時の植地さんの手の感触は忘れられません。

私たちにとって植地さんは唯一無二、北海道合唱界の至宝ともいえる存在でした。植地 計さんのご冥福を心からお祈りいたします。

山崎甲子男 プロフィール

1940年生まれ。札幌出身。早稲田大学混声合唱団では大学創立80周年フロイデハーモニーで小澤征爾さんの指揮で「第九」を歌う。STV(札幌テレビ放送)に入社して放送記者、テレビ、ラジオのディレクター、プロデューサーとして音楽番組を手掛ける。ラジオ日本常務取締役編成局長などを経て、現在ラジオカロスサッポロ・エグゼクティブプロデューサー兼パーソナリティ。2005年に男声合唱団ススキノに入団して、2008年サントリーホールで「男だけの第九」(新日本フィル)を歌う。

【編集部より】

植地さんは何度かお見掛けしましたが、常にどなたかの肩に手を乗せて歩いていました。ステージではすべて暗譜で歌っていましたが、素直で綺麗なテナーでした。我々が暗譜できないとボヤクのが恥ずかしくなります。70歳で急逝されたとは信じられません。とてもお元気な姿しか印象がありません。ご冥福をお祈りいたします。(加藤良一)